

みむろ

第152号

千種小学校

R8. 1. 15

やさしさの追求

学校長 上山昌秀

新年明けましておめでとございます。保護者・地域のみなさまには、平素より本校教育の推進に多大なるご支援を賜り心からお礼申し上げます。三学期始業式の子どもの表情から、冬休み中には家族や親戚の方からたくさん愛情や励ましをもらい、穏やかに過ごせたことがうかがえました。ありがとうございます。今年も、「日は好日(いちにちこれこうじつ)」の言葉を、年賀状に記したり、書き初めて書いたりしました。「一日がよい日になりますように」と願いながら、「今日」という二度とこないかけがえのない一日を全身全霊で生きようと決意を新たにしました。

先月、脳科学者の茂木健一さんの動画を見る機会がありました。そのなかで「人にやさしい人は、自分も成長できる」という話がありました。「人にやさしい人」とはどんな人のことだろう。そもそも「やさしさ」ってどんなことなのだろう。と改めて考える良い機会になりました。最近では、調べたい言葉を検索サイトかけると、まず「AIによる概要」がでてきます。えらい時代です。その概要には、「やさしさ」とは「他者への思いやりや共感、愛情を指し、相手の気持ちに寄り添い、助けたり温かい心で接したりする姿勢や行動のこと」と記載してあります。ここで大切なのは、「相手の気持ちを尊重したうえで」行動することだと思えます。相手の気持ちを無視してしまおうと、押し付けになってしまっかえって迷惑になってしまうこともあります。だから、どんな時に、どんなことをすれば相手の助けになるかをよく考えたいと行動できることが、「人にやさしい」ということだと

思うのです。その後いろいろと調べたり、これまでの経験と重ねて考えたりすることや、「相手に偏見をもたないこと」や「相手の気持ちや意見をまずは受け入れること」に留意し、「感謝の気持ちを忘れないこと」や「時には見守ること」などを大切にすることや、「本当にやさしい人」になっていけると学びました。還暦が迫ってきた身ではありますが、改めて、私の周りにいるたくさんの方たちに、「やさしさ」をもって接していくことを心がけ、自分自身をさらに成長させたいと思えました。そんな思いを込めて、書き初めに「やさしさの追求」とも書きました。「やさしさ」について、子どもたちとも語り合いたいと思っています。

一月八日に三学期の始業式を行いました。そこで、子どもたちに次のような話をしました。

新年の、新学期の目標を立てましたか。目標は「自分自身との約束」です。「自分が立てた目標が、その日のあなたの「頑張るエネルギー」になるのです。「目標」を立てることとはとても大切で、立てて終わりではなく、その「自分との約束」を果たそうと毎日少しずつ実践を積み重ねていくことで、大きく成長していけるのです。

また、三学期は「準備の学期」です。四月には、みんな一つずつ学年が上がります。六年生は、中学生になります。五年生は最高学年になります。一年生も、四月になると新しい一年生を迎えて、お兄ちゃん・お姉ちゃんになるのです。その準備をこの三学期にしていくのです。まずは、一つずつ学年が上がるというのを意識しましょう。そして、今の学年で頑張らなければいけないことや、よくおぼえたいことをしっかりやり切らなければなりません。今学期も「命」を大切にすることと「勉強」を頑張ることをしっかりとやっていきましょう。そして、「チャレンジ種」をいっぱいま

きましよう。できないから挑戦する。自信がないから挑戦する。「未来の自分」のために挑戦する。なにかまともに挑戦する。三学期もやっぱり「いま、力いっぱい！」あしたに種をまこう」です。

新年のスタートにあたり、地域の皆様、保護者の皆様のご多幸と「日は好日」をお祈りするために、今後とも本校の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

心と体のリラックス

防災担当 黒田 圭介



三十一年前の一月十七日に阪神淡路大震災がありました。兵庫県を中心として各地で追悼の集いや防災についての学習会が開かれています。私も防災についての学習会に参加しました。その学習会では、FD工員隊員から能登半島地震における被災地派遣の話をお聞きさせていただきました。

FD工とは、防災・減災に関する専門的な知識や実践的な対応力を備えた教職員から構成されたチームのことです。被災地における学校の早期再開や子どもたちの心のケアを支援、県内外の学校等へ講師として防災教育を推進するなどの活動を行っています。

十二月の学習会では、「心のケア」をテーマにお話を聞かせていただきました。地面が陥没して、宙に浮いている家など被害の大きさが写真からも伝わりました。被災された人々は、心に大きな傷を負っているはずですが、気丈に振舞っている方が多く、FD工隊員の方々は、「心の傷は、まわりから見えて気づくことが難しい」とおっしゃっていました。そんな中、行っていたことは、児童から心の奥にある声を引き出していくことを心がけて、関わることでした。ゆったりとした時間を過ごすこと、小さいテントを立てて、一人の時間を作れるようにすること、前向きになれるように声かけしていくこと、「体がほぐれると心もほぐれる」ので腹式呼吸や肩のリラックス法に取り組むなど様々なことに取り組んでいたと教えていただきました。

ここでは、下記のリラックス法を紹介させていただきます。心のケアを行い、児童の心に寄り添うことは、被災した時だけでなく、日常生活の中でも大切な考え方です。お家でも試してみても大丈夫です。

肩のリラックス法

- 背中をまっすぐに
- 足の裏をつけて
- 両腕はだらーん



- ①肩を高く上げて 一気に ストーン
- ②肩を高く上げる ゆっくり肩の力を抜いて

●腕 足 背中に余分な力は入っていませんが
●スマイル (^_^)

今後の主な行事予定

- 一月 十五日(木) 読書ボランティア チャレンジ教室
- 十六日(金) 一・一七追悼集会
- 十七日(土) 書き初め展
- 十八日(日) (はがてらす)
- 十九日(月) スクールカウンセラー来校
- 二十一日(水) 移動図書館
- 二十二日(木) 読書ボランティア チャレンジ教室
- 二十三日(金) スキー教室(低学年)
- 二十六日(月) PTA本部役員会
- 二十九日(木) チャレンジ教室
- 二月 四日(水) 三年生味噌づくり(仕込み)
- 五日(木) ただらの里運営協議会 新一年生入学説明会
- 六日(金) チャレンジ教室
- 十一日(水) スキー教室(高学年)
- 十二日(木) 建国記念の日
- 十三日(金) 読書ボランティア
- 十三日(金) 授業参観日・学級懇談 千種中入学説明会

一月の生活目標

規則正しい生活をしよう

【読書感想文 優秀作文】

「ともだち」を読んで
一年

このほんをはじめてよんだとき、わたしといっしょだともいいました。それは、わたしもだんぼーるハウスでいっしょいあそんだからです。五がつ きょうしつにおおきなだんぼーるぼこがありました。せんせいに、「ちようだい。」という、「いいよ。」

わたしは、ともだちとだんぼーるでいえをつくりました。やすみじかにくれよんでかべをぬったり、えをかいたりしました。いっしょけんめいしたから、きがついたらたいそうふくがくれよんまみれでした。おりがみでかざりもつけました。たのしかったです。

このほんのエトとぼくは、いつもなかよしでした。そこがいいとおもいました。とちゆうから、シューがやってきて、ぼくはいっしょにあそべなくなりしました。ふたりがきゆうになかよくなつたから、かつてに、ひとりぼっちになつたとおもって、あそばなくなりしました。ぼくは、かなしいだろうとおもつたら、わたしもかなしくなりしました。

わたしは、一がつきにうでのほねをおりました。そとであそべなくなりしました。みんながそとであそんでいると、わたしは、ひとりぼっちになりました。さみしかったです。だんぼーるハウスであそんだけど、ひとりだつたら、たのしくなかつたです。ぼくも、わたしとおなじきもちだつたのかなとおもいました。うでがなあって、そとであそべるようになりました。みんなといっしょにあそんだとき、ともだちがいてよかつたつておもいました。ちくさしようのいちねん、せいは九にんしかいないけど、みんななかよしです。このほんは、「さんいん いっしょよ」つていいなでおわるけど、わたしは「きゆういん いっしょよ」つていいなでおわります。



「ねえねえ、なにってる？」を読んで 三年

ぼくは、「ねえねえ、なにってる？」という本を読みました。この本にでてくるトーマスは、色の見え方がほかの人とはちがいます。しかし、そのことを自分ではへんだと思っていません。それどころか、ほかの人はどう見えているのだろうとそうぞうすることを楽しんでるのです。

ぼくがこの物語で一番心にのこつたのは、かぞくみんなが同じ食たぐいをするのに、それぞれがまつたくちがう見え方をしているところとです。科学者のママは食べ物を科学的に見ていたり、ゲームずきのパパはまわりの人がゲームのキャラクターに見えていたり、音楽家のパコおじさんは昔も目に見えていたり、フリーアおばあちゃんはみんなのことがぼやくて見えていたりします。犬のオレオは食べ物ばかり見えていました。同じ食たぐいをかこんでいるのに、見え方がぜんぜんちがうなつておどろきました。

この本を読んだ、同じ物を見ても、人によつて見え方がぜんぜんちがうということに気がつきました。今まではみんなと同じように見えていたものだと思つていたけれど、人によつてちがうかもしれないのだと考えるようになりしました。なぜなら、この本には、人は、それぞれ目に見えないメガネをかけていると書いてあつたからです。ぼくは今、どんなメガネをかけているのか考えてみました。

ぼくは、きん肉トレーニングがすきだから、自分のうでを見るときん肉が気になります。かぞくによつて見え方がちがうと、お父さんは、「すこいなあ。」と言います。お母さんは、「ぶよぶよやん。」と言います。まつたく見え方がちがいます。かぞくで遊園地に行つた時のことを思い出しました。お父さんは次に乗る乗り物のことを、お母さんは買いたい物をすることを、お兄ちゃんはお早く帰りたいことを考えていました。このように、人はみんな考え方がちがいます。それぞれ、ちがうメガネをかけているのだと思つきました。これから、友だちやかぞくと話をするとき

は、どんなメガネで見ているのか考えて話そうと思つています。自分と同じ考えだと決めつけるのではなく、人それぞれ見え方や感じ方がちがうと思うようにしたいです。見え方や考え方は人それぞれちがうていいのです。それは当たり前のことなのです。みんなちがつてみんないいのだと思つています。

わたしが読んだ本は、「おとなになれなかつた弟たちに」です。この本に出てくる主人公の「ぼく」には、ヒロユキという小さな弟がいます。わたしにももうすぐ一才になる弟がいるので、「ぼく」やヒロユキのことを知りたくなつてこの本を選びました。

毎日空からぼくだんが落ちてくるので、「ぼく」たちは防空ごうという暗い地下室で毎ばんねていたそうです。ヒロユキはまだ小さいので、あまり食べられる物がなく、重湯というおかゆをさらにうすめたような物を食べさせたり、山羊のミルクを遠くまで買に行つて飲ませたりしてました。ときどき配給でもらえるミルクも、「ぼく」もおなかが大変な食べ物でした。弟のミルクはよだれがでるほど飲みたくなるものでした。お母さんからミルクはヒロユキの大切な食べ物だときいていたけれど、「ぼく」はがまんできずに飲んでしまいました。それも何回も。「ぼく」は悪いことだと分かつていたのに飲んでしまいました。しばらくして、ヒロユキは栄養失調で死んでしまったというお話です。

この本を読んだ後、とても悲しく辛い気持ちになりました。大切な弟が死んでしまったのはミルクを飲んでしまった自分のせいだと思つてました。もし、私が「ぼく」と同じ状況だったら、私はどうしていただろうと考えました。きっとミルクは飲まないと思つてますが、絶対に飲まないとは言いません。おなかがべこべこで食べる物がなから、あまいあまい弟のミルクが飲みたくなつた「ぼく」の気持ちも分かります。

今では私たちは食べたり飲んだり当たり前でできているけれど、戦争中は食べる物がなくなり、ヒロユキのように栄養失調で死んでしま



人がたくさんいることを初めて知りました。とてもかわいそうであまりせん。どんなやせ細つていく「ぼく」や母たちのさし絵を見て、私の心は苦しくなりました。今でも世界では戦争をしている国があります。けがをして血を流してたり、やせ細つて苦しんでいたり、家族とはぐれて一人ぼっちになつて泣いていたりするすがたをテレビで見ると苦しくなつてきます。

食べ物や飲み物がなくて苦しみ、大切な人もなくす苦しみがこの話からよく伝わつてきました。戦争は、悲しいし、辛いし、苦しいし、いたくてこわいです。そんな戦争がいつかなくなつてほしいと私は思つています。私たちに今できることは、戦争をわすれないことです。この本のことをわすれないで、平和を守つていきたいです。世界のみんながやさしくなつて国と国が仲良くなつたら戦争をしなくなるとわたしは思つています。

今年度の取組としては、中学校から小学校へは、蒲田先生と藤井先生に授業のサポートに来ていただいています。蒲田先生には三、四年生の理科に、藤井先生には五、六年生の社会に入つていただいています。さらに連携を図るため、小学校から中学校へは、上野先生が授業のサポートをしています。

リサイクル活動

ありがとうございます

十二月のリサイクル活動では、多くの方のご協力により、スムーズに回収することができました。ありがとうございます。収益金については、子どもたちの教育活動経費として貴重な財源になっており助かっています。引き続き皆様のご支援ご協力をよろしくお願ひします。

